

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成26年5月)

～百貨店を中心に消費増税の影響が緩和～

- 景気ウォッチャー調査・5月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2ヶ月ぶりに上昇したほか、先行き判断も2ヶ月連続の上昇となった。
- 現状判断DIの上昇は、消費増税による影響が前月に比べて小さくなったことが主な要因とみられる。まだまだ厳しい声も残っているものの、百貨店や自動車販売などを中心に、駆け込み需要の反動減の動きは前月よりも落ち着きつつある。ただし、同じ業界でも地域によって動きが異なるほか、取扱商品によっても回復度に差がみられる。
- また、ゴールデンウィーク明けに予想以上の落ち込みがみられるとの声も様々な業界から聞かれることから、今後の回復ペースには注意が必要と考えられる。
- 一方、先行き判断は、駆け込み需要の反動減の動きがさらに落ち着くとの見方や、夏のボーナス増加への期待などからDIの上昇につながっている。特に、賞与増の恩恵を受けやすい百貨店をはじめとする業界からは、明るい声が聞かれる。

○百貨店業界での『消費税』関連のコメント(現状判断)

な や よ く な っ て い る	百貨店(売場主任)	・消費増税の影響と耐震工事が重なり、売上が前年比で約10%減少している。耐震工事は8月ごろまで続くので、今後も状況は変わらない。
	百貨店(商品担当)	・客単価が前年比で15%ぐらい上がっている。特価の婦人雑貨などでは、良い物であれば高くても買う人が増えている。
	百貨店(店長)	・消費増税後も、客の購買心理は大きく落ち込んでいないように感じられる。
	百貨店(販促担当)	・今月に入り、来客数が前年を上回る推移となっている。衣料品も堅調に動き出しており、消費増税の影響が大きかった先月に比べて、客の動きは良い。ただし、高額品については今月も苦戦し、高級ブランドや宝飾品の売上は前年を大きく下回っている。
変 わ ら な い	百貨店(売場主任)	・消費増税の影響で、今月も売上は前年比で約10%減となっている。高額品や化粧品への影響がいまだに大きい。
	百貨店(売場主任)	・消費税率が上がり、現在は少し低迷している。思ったほどの落ち込みは感じられないが、高額品を中心に売上はなかなか戻らない。消耗品や食料品はそれほど悪化していないが、単価がやや下がっているほか、売上全体も少し減っている。
	百貨店(営業担当)	・消費増税前の駆け込み需要の反動減による影響や、気温が低かったこともあり、ファッション関連の動きが悪い。
	百貨店(商品担当)	・消費増税の影響は、入店客数に比べて買上客数が伸び悩んでいる部分に表れているが、ほぼ想定内の推移である。
	百貨店(サービス担当)	・ゴールデンウィーク期間中は、1日の来客数が今年の最高を更新したが、新しくオープンした商業施設が観光地化することで、当店の売上は苦戦している。
	百貨店(外商担当)	・4月にある程度生じた消費増税後の影響が継続すると予想されたが、客による増税の認知が思ったよりも早く、今月はそれほど影響が感じられない。
な や よ く な っ て い る	百貨店(売場主任)	・店全体でも売上は前年比で7%前後減少し、来客数も5%前後減少するなど、高額品や食料品を中心に4～5月は厳しい状況である。
	百貨店(売場主任)	・ゴールデンウィーク期間中は多くの客が来店し、好調に推移したものの、それ以降は苦戦している。消費増税直後の4月と比べて良くなると予想していたものの、改善には至っていない。客の購買に対する姿勢には慎重さが感じられるなど、増税の影響がまだ続いている。
	百貨店(売場主任)	・得意客の来客数や購入金額は前年並みに推移しているが、一般客の来客数が前年を下回っており、購入に至らないケースも多い。
	百貨店(営業担当)	・一般顧客の売上は、海外からの観光客の買上が伸びていることも含め、わずかに増えているが、富裕層の優良顧客による高額品の買上はまだ低迷している。

な っ て い る や や 悪 く	百貨店（服飾品担当）	・前月に引き続き、化粧品やアクセサリといった商材の売上が前年割れとなっている。ただし、化粧品は前月に比べて10%ほど回復しており、来月には前年どおりの売上が見込まれる。また、高額品のアクセサリも規模の大きな店ほど早く回復しており、こちらも来月には前年並みの回復が見込まれる。
	百貨店（売場マネージャー）	・身の回り品や食品の売上動向はあまり良くない。入店客数は回復傾向にあるものの、5月は前年比で微減となっている。一方、衣料関係では紳士関係が好調に推移し、婦人関係の苦戦が目立つ。
	百貨店（マネージャー）	・紳士衣料は3月が前年比で25%増、4月が12%減、5月が2%減と回復傾向にあるが、まだ前年を下回っている。宝飾品や時計は、3月が200%増、4月が30%減、5月が30%減と、3か月の累計では60%増であるものの、回復の動きが鈍化している。
な っ て い る 悪 く	百貨店（企画担当）	・4月からの消費税増税の影響で、今月の売上は前年比で約97%となっている。3月の駆け込み需要による売上の増加分を食いつぶすまではいかないものの、しばらくは前年を割り込む状況が続くと予想している。
	百貨店（外商担当）	・駆け込み需要の反動で前月が落ち込んだため、前月に比べると良くなっている。
	百貨店（売場マネージャー）	・消費税増税前と比較すると、商材によっては動きの鈍い物がある。高級寝具などの高額商品は、まとめ買いも少なくなっているほか、増税以降は値引き販売に客が集中する傾向がみられる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 12												年 13					年 14							
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
現状判断	近畿	48.2	43.2	45.9	44.2	43.4	40.8	43.5	49.8	53.2	56.8	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2	51.4	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9
	(全国)	47.2	43.8	44.2	43.6	41.2	39.0	40.0	45.8	49.5	53.2	57.3	56.5	55.7	53.0	52.3	51.2	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1
先行き判断	近畿	46.9	48.1	47.0	44.6	41.9	45.0	45.7	53.6	59.8	61.2	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9	52.3	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1
	(全国)	48.1	45.7	44.9	43.6	43.5	41.7	41.9	51.0	56.5	57.7	57.5	57.8	56.2	53.6	53.6	51.2	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8